

笠間地区保護司会が 親子手ひねり教室 を開催

7月7日(土)、家族の絆を深め「非行や犯罪のない、安全で安心なまち笠間」を目的として、笠間焼手ひねり教室が笠間工芸の丘で開催されました。

笠間地区保護司会が主催し今回で10回目を迎えた教室には、市内小中学校から42組84名が参加しました。意見を出し合いながら真剣に作業に取り組む姿が印象的で、土の感触を愉しむ参加者は笑顔がいっぱいでした。



手ひねりを行う参加者

虐待防止に向けた 研修会を開催しました

7月18日(水)、友部公民館で、市内の高齢者福祉施設、障がい者施設の職員を対象として、施設職員の虐待を防止するための研修会を開催しました。

みとみらい法律事務所の弁護士篠崎和則氏と茨城県社会福祉士会理事の上田和寿氏を講師に迎え、司法と福祉の観点から虐待に関する正しい知識と発生させない心構え、体制作りについて話していただきました。

近年は、全国的に高齢者や障がい者などに対して、施設職員が暴力をふるう事件があつとを絶ちません。虐待はあつてはならないこと。

これからも、虐待の認識と防止に向けた意識づけを行っていきま



スライドで説明する上田社会福祉士



講演する
篠崎弁護士

自分らしく 夢をかたちに

7月27日(金)、茨城県陶芸美術館の県民ギャラリーにて、茨城新聞社と笠間市が主催する第18回全国子ども陶芸展inかさまの入賞者の表彰式が行われました。

全国の小中学生が応募した1,466点の中から選ばれた入賞作品は、個性豊かで動き出しそうなものから美味しそうなものなど多岐に渡っています。

特別賞として市内からは茨城新聞社長賞に杉田美咲さん(笠間小4年)と枝川結音さん(友部中2年)、市教育長賞に新堀達也くん(友部小6年)、茨城工芸会会長賞に小島光琉くん(友部小6年)、笠間市動美術館長賞に松木乃理夏さん(笠間中3年)がそれぞれ選ばれました。



左から、新堀くん、松木さん、枝川さん、小島くん、杉田さん

ファミリー健康体験を 開催

7月28日(土)、地域医療センターかさまで、健康や介護について考えるイベント「ファミリー健康体験」が開催され、市内の小中学生とその家族52名が参加しました。

子どもたちがドクターやナース姿となって、家族の血圧測定や身体測定を行ったり、高齢者の視界や体の動きを疑似体験したり、楽しみながら健康や介護を学習できました。子どもたちから測定結果が伝えられると、驚きをみせる家族の姿もありました。

医療、福祉、保健が連携した地域医療センターかさまでは、市民の皆さんがより健康でいられるよう事業を展開していきます。



血圧測定

まちの話題

笠間の農業を担う 青年農業者

地域のリーダーとして、農業の活性化などに取り組み青年農業者に養豚農家の鈴木茂幸さんと、露地野菜を栽培する込山楨一さんが認定され、7月11日に市に表敬訪問されました。

二人は両親の代から農家に携わっていて、新たな風を吹き込むべく、笠間市の農業発展のために日々尽力しています。

山口市長は、「若い方が活躍していくのは、市としても励みになるし、今後も市の農業を引っ張ってほしい。」と話しました。



左から、込山さん、山口市長、鈴木さん

全国高等学校 合気道演武大会を開催

8月4日(土)、笠間市民体育館において第17回全国高等学校合気道演武大会が開催され、全国から36校、約400名が参加し、各学校が積み重ねてきた日々の稽古の成果を披露しました。

大会では、参加校のほか招待演武として友部高校や県内の道場で稽古する高校生、市内中学校4校が技を披露し、(公財)合気会の植芝充央本部道場長による模範演武が行われるなど、会場は熱気に包まれました。



参加校による演武

原子力災害に備え 広域避難訓練を実施

8月4日(土)、5日(日)の2日間、原子力災害発生を想定した広域避難訓練を実施し、緊急時防護措置を準備する区域(東海第二原発から30km圏内)に居住している行政区長や自主防災組織など住民の代表者約70人が参加しました。

訓練は、市の原子力災害広域避難計画で指定されている一時集場所に集合したあと、避難先である栃木県5市町(小山市、真岡市、下野市、上三川町、壬生町)まで避難経路を確認しながら行われました。

避難先では、受け入れ先自治体の防災担当者から施設の説明を受けたあと、中継所兼基幹避難所となる場所の視察をしました。

市では、原子力災害広域避難計画を実効性の高いものとしていくため、今後とも訓練を通じて随時見直していきます。



一時集場所から出発する参加者

稲田石の普及に向けて

7月31日(火)、新体制となった稲田石材商工業協同組合青年部が、お揃いの法被に身を包み磯英亮部長とともに市に表敬訪問されました。

青年部は、稲田石の更なる普及のため、建築物への石の利用推進PRを行うほか、市内外の小学校に出向いて、子どもたちに直に稲田石に触れてもらい、彫刻刀を使用した石彫体験などPR活動も行っています。

青年部では、稲田石に負けない「かたい」絆で普及活動を行っていきます。



青年部の皆さん(中央は山口市長)